

平成22年6月30日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320022

研究課題名（和文）ファシズム期の宗教と宗教研究にかんする国際的比較研究

研究課題名（英文）Religion and Religious Studies during the Fascist Era

研究代表者

竹沢 尚一郎（TAKEZAWA SHOICHIRO）

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：10183063

研究成果の概要：ファシズム期（1920年代、30年代）の宗教と宗教研究について、国際的な比較研究を実施した。ファシズム国家であるイタリア、ドイツ、日本、ルーマニアに、非ファシスト国家であるイギリス、フランスを取り上げ、政治的運動としてのファシズムと宗教の相関、文化運動と政治の関係等について理解を深めた。本研究に加わった研究者10名の手で、竹沢尚一郎編著『宗教とファシズム』を水声社より2010年6月に刊行した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2007年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2008年度	3,200,000	960,000	4,160,000
年度			
年度			
総計	10,100,000	3,030,000	13,130,000

研究分野：アフリカ史・宗教人類学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：(1)ファシズム、(2)宗教研究、(3)1930年代、(4)ドイツ、(5)文化運動

1. 研究開始当初の背景

ここでいうファシズム期は、1920年代、1930年代をさす。この時期は、日本のみならず、ヨーロッパ諸国やアメリカ大陸においても、宗教と政治が濃密に交錯した時代であった。ファシズム期の国家体制や社会運動についての研究はこれまで十分になされていたが、宗教と政治がどのように関連していたかについては、これまで十分な研究がなされたことはなかった。

一方、宗教研究や神話研究は、1920年代、

30年代に大きな飛躍を見たことが指摘されていた。しかしながら、それがどのような社会的、政治的背景から生まれたものであるか。また、その時期に形成された宗教研究、神話研究は、ファシズムが終焉を迎えた第二次世界大戦後、どのようにみずからの装いを変えることで、存続ないし影響力を保持しえたのか。

これらの観点については、不明の点が多く、この欠落を埋めるべく、共同研究を実施することにした。

2. 研究の目的

1920年代、1930年代は、世界的に見て宗教が権威を喪失する世俗化が進行する一方で、ドイツ、イタリア、日本などのいわゆるファシスト国家では、政治と宗教が密接に関連することで、独特の社会的状況が生み出された。このとき、既成の宗教組織は、ファシズムの勃興に対し、いかなる積極的ないし批判的な役割を果たしたか。宗教に近い文化運動は、政治とどのように関わったか。これらの問いを、日本、ドイツ、イタリア、ルーマニアなどのファシスト国家と、フランス、イギリスなどの非ファシスト国家とを比較することで、総体的に明らかにすることを目的とする。

本研究を通じて解明しようとする具体的な問題点は、以下のものである。

- (1) ファシスト国家であるイタリア、ドイツ、日本、ルーマニアにおいて、既成の宗教組織（具体的には、カトリック、プロテスタント諸派などのキリスト教会、仏教系各宗派、新宗教教団、ユダヤ教会など）は、ファシズムの興隆に対していかなる姿勢をとったのか。またそれらは、ファシスト政権の樹立後、どのように政権と関係したのか。
- (2) これらの国家において、宗教以外の文化運動・知的運動は、ファシズム政権の樹立にいかなるかたちで寄与し、あるいは、それへの抵抗勢力となりえたのか。とりわけ、親ファシストの文化・宗教運動は（日本における日蓮系過激集団、ドイツにおける民族系集団、ルーマニアにおける鉄衛団など）、ファシスト政権の樹立後、どのような運命をたどったのか。新ファシスト宗教運動は、政権に吸収されたのか。それとも排除されたのか。
- (3) 非ファシスト国家であるイギリス、フランス、アメリカ合衆国等において、既成の宗教組織はどのような形でファシズムに接近し、あるいはそれへの抵抗勢力となりえたのか。
- (4) この時期は、これらの国家においては、シュルレアリスムやモデルニズモ、ダダイズム、表現主義など、各種の文化運動が盛んに生じた時期であった。これらの文化運動はしばしば宗教に対する敵対を示したが、それは実際に反宗教的なものであったのか。それともそれらは、むしろ宗教の仮装ないし近代版ともいべき性格を有してはいなかったのか。
- (5) 中国やベトナム等の被植民地国家において、ファシズムの拡張に対する抵抗運動

を組織する上で、宗教はいかなる役割を果たしたのか。また、そのようにして遂行された反植民地闘争は、伝統的要素や宗教的要素に対して、いかなる結果をもたらし、新社会の建設にどのように貢献したのか。

- (6) ファシスト期は宗教研究や神話研究においても、ドイツやイタリアでは大学にその関連講座が設けられるなど、制度的な基礎を拡充した重要な時期であった。その時期に形成された宗教研究や神話研究は、ファシズムとどのような相関関係にあったのか。またそれらは、ファシズムが終焉した第二次世界大戦後、どのようなかたちで存続ないし自己変革をおこなったのか。

3. 研究の方法

本研究は、方法的にいくつかの特徴を有している。それを具体的に列挙すると、以下のように整理される。

- (1) 本研究は、比較研究である。具体的には、1920年代、30年代の、日本、ドイツ、イタリア、ルーマニアなどのファシスト国家と、フランス、イギリスなどの非ファシスト国家において、それぞれ宗教と政治とがどのように相関していたかを比較研究する。また、中国やベトナム、パレスチナなどの被植民地において、ファシズムへの抵抗勢力がどのように組織されていたかを比較検討することも課題のひとつとする。
- (2) 本研究は、広い意味での宗教性を含めた文化研究である。既成の宗教の多くは、ドイツにおけるカトリックがそうであったように、ファシズムに批判的であったが、積極的な対抗勢力にはならず、黙認した。一方、マルクス系の知識人や、シュルレアリストなどの対抗的な文化運動がこの時期に生じ、対抗的な勢力となったが、その影響力は拡大しなかった。それらの理由を、文献研究により明らかにする。
- (3) 本研究は、政治と宗教の2つの分野にまたがる学際的研究である。現在の人文諸科学は、歴史、哲学、文学などの学問の細分化の上に成り立っている。しかしながら、現実には生きて人間や、それらによって構成される社会は、1つのまとまりの中を生活している。ファシズム期に宗教および宗教的な心性がどのように政治とかかわりながら経験されていたかという大きな課題に応えるには、再分化さ

れた諸領域での着実な研究に基づきつつ、それを総合していく広汎な視点が必要である。

- (4) 本研究は、人間性の本質へとせまろうとする独自の方法的視点を持っている。宗教は人間の歴史において、これまでつねに存在してきたものであった。ネアンデルタール人が埋葬を行っていたとの主張がなされて以来、宗教は人間性にとって不可欠の要素を考えられてきた。しかし今日、世俗化の概念が示すように、宗教は少なくとも過去の影響力を喪失している。このような世俗化は、とりわけ本研究が対象とする20世紀前半に世界的に進行したものであった。とすれば、この時期の特徴であるファシズム運動は、ある意味で宗教の偽装された姿といえるのか。この時期に興隆を見たシュルレアリスムをはじめとする文化運動や、宗教研究、神話研究などは、宗教的なものを希求する人間存在に根ざしたものであるのか。これらの問いを考えることは、人間性の将来についての理解を深める一助となるはずである。

4. 研究成果

研究の開始時点では、既成の宗教組織とファシズム運動との相関関係を理解することが、目的のひとつであった。しかし、研究を進めるうちに、既成の宗教組織よりは、むしろより広汎な文化運動や、既成の宗教には収まらない、日蓮系の宗教運動や大本教、ルーマニアにおける鉄衛団、ドイツにおける民族運動などに、研究の関心が移行していくこととなった。

本研究による研究成果は、主として以下の点である。これについては、本研究の成果として、10名の研究者の寄稿による論文集、竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』（水声社、2010年6月刊行）と、長谷千代子著『文化の政治と生活の詩学』（風響社、2007年）、を出版した。

本研究による具体的な成果は上記の著作に集約されているが、そのうちのいくつかを挙げるなら、以下の通りである。

- (1) ドイツにおける民族主義運動、日本における日蓮系諸集団、大本教、ルーマニアにおける鉄衛団など、ファシズム運動にきわめて近いところに位置していた宗教—文化運動は、その過激な行動主義とテロリズム等により、ファシズム政権が樹立するためのいわば先駆けとなった。しかし、ファシズムが政権を掌握すると、行動主義の立場に立つこれらの運動は、政権にとって危険なものと映るようにな

り、多くの場合弾圧され、排除されていた。そこには、ファシズム運動が一面においてきわめて非合理的な心情に依拠しながら、国際的な弱肉強食の闘争を生き延びるためにきわめて合理的な側面を有するという、ファシズムに特有の2面性を認めるべきである。

- (2) ファシスト政権が樹立されず、ファシズムに対する抵抗勢力となりえた国家であるイギリスやフランスでも、親ファシズム運動が成立し、多くの知識人がそれに魅了された。その一方で、シュルレアリスムをはじめとする左翼系の文化運動が生じ、大きな影響力をもつこととなった。これらの運動は一般に宗教に対して批判的であったが、反面、非合理的なものを尊重し、身体的なパフォーマンスや演劇性に深い関心を寄せるなど、宗教的といっても良い指向性を有していた。こうした運動を理解するためのキーワードとして、「崇高」と「聖」をあげることができる。前者は、非合理的なものへと接近しつつも、そこからより高次の存在となって帰還するナルシズム的自己を示し、後者は、合理的な自己の解体と世界への開かれを示す語と理解される。「崇高」は親ファシズム文化運動のキーワードでもあり、その後も現代アートの一面を形容する語としても用いられてきた。人間は合理性だけの存在ではなく、非合理的な一面を有する存在であるとするれば、世俗化の進んだ現代において非合理的なものにしかるべき位置を与えるためにも、「崇高」や「聖」の考察が不可欠といえる。

- (3) イタリア、ドイツ、フランス、イギリス、日本などにおいて、宗教研究や神話研究が大学制度内に確立され、あるいは拡張されたのは、1920年代、30年代のことであった。この時期にこれらの学問が確立された背景には、ファシズムが自己の学問的な基礎付けを試みたという事情に加え、19世紀の合理主義、功利主義万能への反動として、非合理的なものへの関心が高まり、それを学問的に理解しようとする機運が生じたことがあった。神話研究や言語学におけるインド・ゲルマン研究、宗教研究におけるエリアーデ主義などには、親ファシズム的性格が濃厚であり、これらの下位分野をどのようにして脱構築していくかが、宗教研究や神話研究にとって、今まさに問われていることである。そうした脱構築のためには、その性急な批判では十分ではない。それらは姿を変えて、ふたたび現れてくるだろうからである。むしろ重要なのは、これ

らがどのような時代背景から、どのような社会的要請にこたえるものとして現れてきたかを、冷静に検討していくことであり、それへの抵抗の可能性を具体的にたどっていくことである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

- ① 竹沢尚一郎、パネル「宗教とファシズム」5本の研究発表を予定、日本宗教学会、2010年9月時上旬予定、立教大学(東京都)。

[図書] (計5件)

- ① 竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』水声社、2010年、370頁。
- ② 竹沢尚一郎『社会とは何か—システムからプロセスへ』中公新書、2010年、230頁。
- ③ 松村一男『神話思考(1) 自然と人間』言叢社、2010年、655頁。
- ④ 竹沢尚一郎『人類学的思考の歴史』世界思想社、2007年、379頁。
- ⑤ 長谷千代子『文化の政治と生活の詩学』風響社、2007年、374頁。

[その他]

国立民族学博物館ホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/research/sr/18320022.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹沢 尚一郎 (TAKEZAWA SHOICHIRO)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号：10183063

(2) 研究分担者

新免 光比呂 (SHINMEN MITSUHIRO)
国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授
研究者番号：60260056

(3) 連携研究者

林 淳 (HAYASHI MAKOTO)
愛知学院大学・文学部・教授
研究者番号：90156456

山中 弘 (YAMANAKA HIROSHI)
筑波大学・人文社会科学研究所・教授
研究者番号：40201842

松村 一男 (MATSUMURA KAZUO)
和光大学・表現学部・教授
研究者番号：70183952

深澤 英隆 (FUKASAWA HIDETAKA)
一橋大学・社会科学研究所・教授
研究者番号：30208912

臼杵 陽 (USUKI AKIRA)
日本女子大学・文学部・教授
研究者番号：40203525

川村 邦光 (KAWAMURA KUNIMITSU)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：36214696

平藤 喜久子 (HIRAFUJI KIKUKO)
國學院大學・日本文化研究所・准教授
研究者番号：50384003

大谷 栄一 (OTANI EIICHI)
佛教大学・社会学部・准教授
研究者番号：70385962

長谷 千代子 (NAGATANI CHIYOKO)
総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員
研究者番号：20450207